

諸國
會
年中行事大成

76
3382
1



3382
1

速水春曉齋畫圖

諸國
圖會
年中行事大成

全部六冊

浪華群玉堂製本

皇朝曾制禮四海
壯觀多今日豎圖
畫羊李如感何

富小路正三位

丹部卿藤原貞直題

富小路正三位

二日

朝觀行幸 ぬま 御吉書始 不

拜礼 系

愛宕天狗酒盛 系

角倉象弘系始 系

厨下 系

有馬入湯始 格法

試筆 汚始 系

湯及始 格法

摩那切始 系

弘系始 格法

御吉月藥始 系

裏白連致 系

東寺弘牛王 系

慈惠大昨忌 系

東殿山天恩湯 係

住吉踏奇 大坂

茗荷 系 丹波

御幸始 系

蹴鞠始 系

鏡園 系

御倉預供物 系

葵事始 系

御祈始 系

千寿翁茶 系

御倉預供物 系

稲荷注連張 系

東福寺羅漢供 系

韃馬寺三種宝持并帳 系

天王寺老子供 大坂

米市後儀商 大坂

芝明神系 江戸

高基寺湖月尾云忌 系

芝明神系 江戸

七日前舍 系

白馬前舍 系

人日 系

七草 系

七日前舍 系

白馬前舍 系

清水与牛王 系

其面富 格法

勝尾寺家 格法

住吉白馬神夏 大坂

菜橋川神夏 大和

鍵引 伊賀

女叙位 ぬま

女王祿 ぬま

御斎會 系

真言院御修法 系

大元降法 系

祇園牛王 系

御敷出始 系

新薬師寺市 大和

諸禮 系

居籠系 格法

蛭子系 大坂

伊予志系 格法

貴弘神供 系

十日研羹 系

蛭子系 大坂

伊予志系 格法

常陸常神事 ぬま

縣召除目 ぬま

具足洗餅團 不

握系光緒市始 系

天王寺金堂祈始 大坂

奏事始 系

具足洗餅團 不

握系光緒市始 系

稻荷武射 系

住吉御結鎮 大坂

直會系 尾張

上賀茂御棚飾 系

御倉金内輪儀 ぬま

男踏奇 ぬま

十四日糺 系

上賀茂御棚飾 系

祇園粥杖禊民社三科枝 系

飯訪筒粥 格法

大津葦打 系

外交御頭神夏 格法

登田八棧水針 江戸

飯訪筒粥 格法

伊達墨塗 格法

外交御頭神夏 格法

上元 系

小豆粥祝 不

粥杖 不

爆竹在吉書揚 不

御薪 ぬま

兵部手表 ぬま

日侍 系

八棧系 系

西七條田植神事 未
三保明神系 後河 博多松難子 筑前
牧岡粥占 河内 真福寺心經會 大和

十六日 女踏奇 未 日野裸踊 未

七瀬川裸踊 未 山崎舎合始 未

書父入 未 不動宮定此 未 真福寺特起始 大和 西大寺茶盛 大和

妙見寺石賣 下後 念人 冬河 天指立枕燈 丹波 十六楼 仔細

十七日 射猪 未 猪進頭 未 新淨靈射猪 大和 寶寺鬼雛 未 西大寺詣 備前

十八日 左義長 未 猪弓 未 寶會始 未 大後 未

十九日 真福寺牛王 大和 舞淨覽 未 淨會始 未 大後 未

二十日 鶴庖丁 未 八幡夜神齋 未 知恩院淨忌 未 一夜官女 備前

廿一日 廿日正月 未 太秦大會 未 相馬妙見祭 大和 鐵炮洲高輪月侍 大和

廿二日 清水寺奉武連致 未 目録早

晦日 諸國年中行事大成卷之壹

正月之部

禮記月令云孟春之月是月也東風凍解蟄蟲始振魚上冰雉始鳴耕者始耨土氣上騰天子始耕
上之類魚を耕る雉を天氣下之類地氣上騰天子始耕
本前勤王令にて
農幸は布しむま

立春 春高時乃初先音をこさあり漢律曆志曰少陽之東乃方本位

東の動なり陽事物成動一蠢あり是を春とらふと云う地は春の字

其元と蠢乃字形し成後春の字小能くあり万物發生して動さ出る意

なり和名乃春の字とるを訓と張を意月トく本陽氣を誘きて

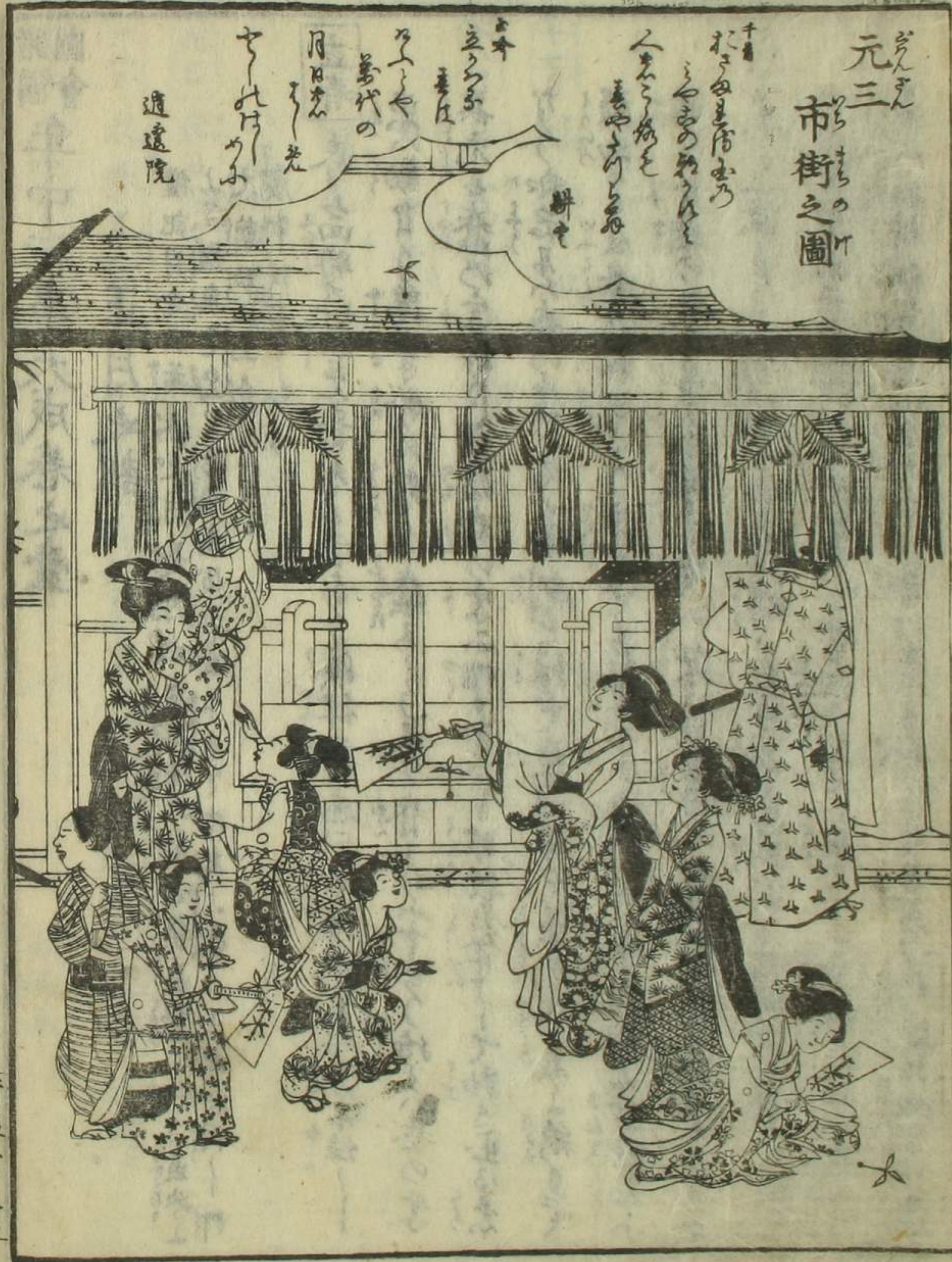
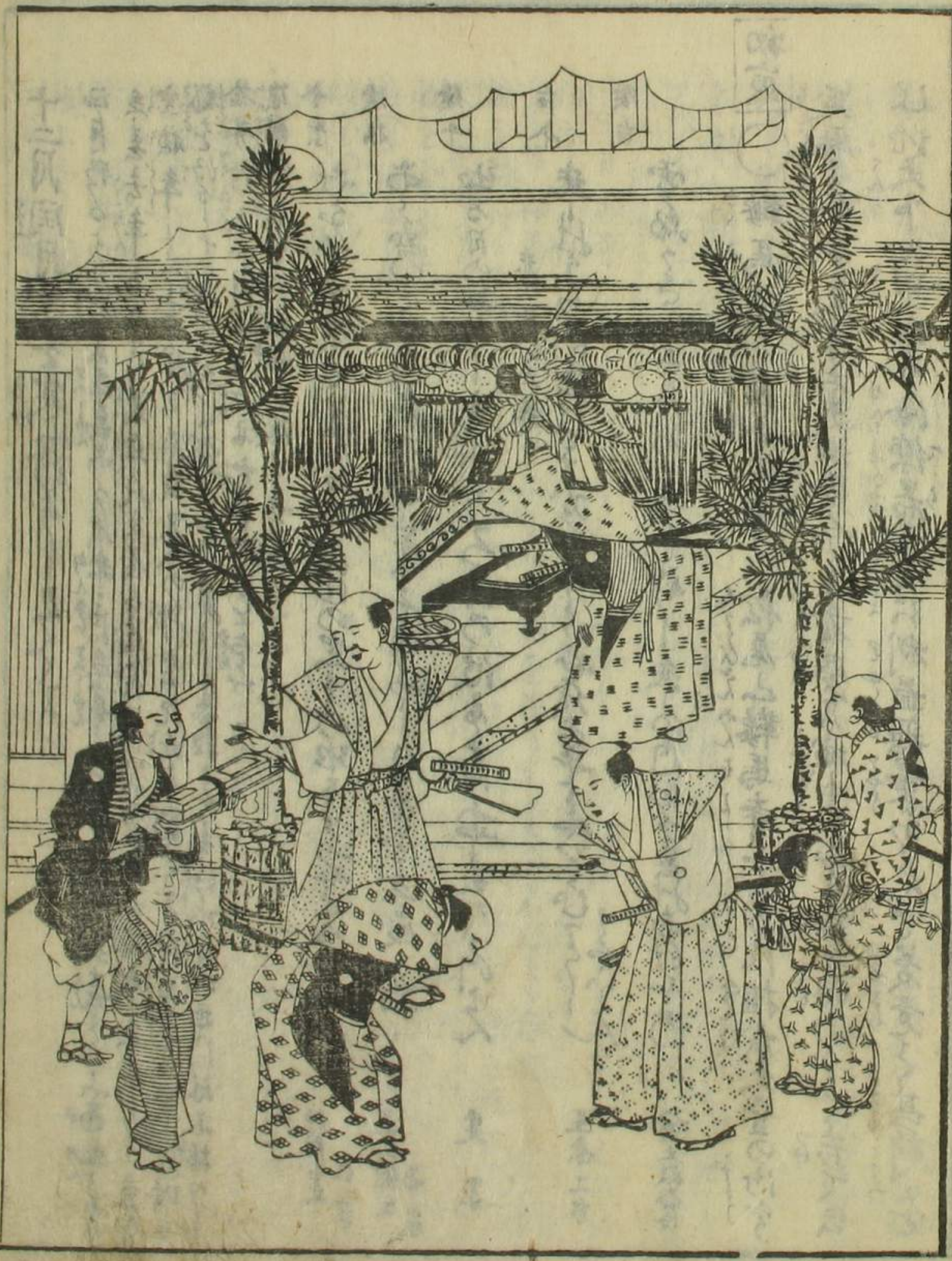
張出ると云意乃和訓より漢土を意中しく異あり漢土の意乃万物動小

對一皇朝の意と本本の芽を張小向たり蓋し春夏秋冬乃四時十二月と

りて一奉と一月月と云ふの成始する原漢土の制ありて何處の附も是と

定めたるや體也わづらふと書經堯典を按むる小堯帝は片小義仲

義叔和仲和叙と云ふのあり帝は仁月令トて日月乃乃道成測に四季



元三
市街之圖

千
松
之
白
屋
之
中
之
人
之
多
也
長
也
之
所
也

本
之
所
也

之
所
也

月
日
之
光

之
所
也

道
遠
院

三十一

下子

○上賀茂燈籠

檜燈籠於布衣にてカウタチの燈籠を燈籠ありは燈籠と稱す小松二樹と引給ふ

二申

○春日所田植

大和國添上郡小河

武式部小橋を付くくより田植乃吉仙伝は林を農民未田乃水は不辨と又市に極至子の教はねを灰極小破る

元日

玉蜀寶典云正月を燭月中一其日を元日と云奉の時乃元日元

放不三元日と云也五雜俎云是と四時と云奉最時乃始月の始

今日より二日と云
後十三日中つり
玉葉
庭のせふをこけりてけりる人のまのま千世乃と云
後續
陸所院寺三百

上庭のせふをこけりてけりる人のまのま千世乃と云
仲定

四方拜

公古、根源云元正寅の時ふとと屬星と當入天地四方之儀と

指し給ひて年災とと拂ひ實祓儀も新中法と云て侍る也清涼殿

乃東階の中入細乃卯小所屏風と云てせし其中小所座三座と云ひ

其あふとふれれをそと香花灯と云てはあふとて四時儀式

ありひりて敷上れ付居ると云方おをさけりて也此は内裏

松河橋園大名家りどの外いさか幸もふれけりす河原も見えん

仁和五年二月寅乃別小天地四方屬星と陵を也

乃清祀本乃きれと下も聖徳と見えんはたか皇極天皇兩儀乃

とて南園乃河上乃有るに方と也

あり日幸紀本の書と云れをさけりてと云てありて人其上乃

星乃也一災難との我く敬天地瑞祥志と云書にんてりて

江流舟之主殿寮所湯を供一鶏鳴小掃於寮所杖杖清涼殿の志

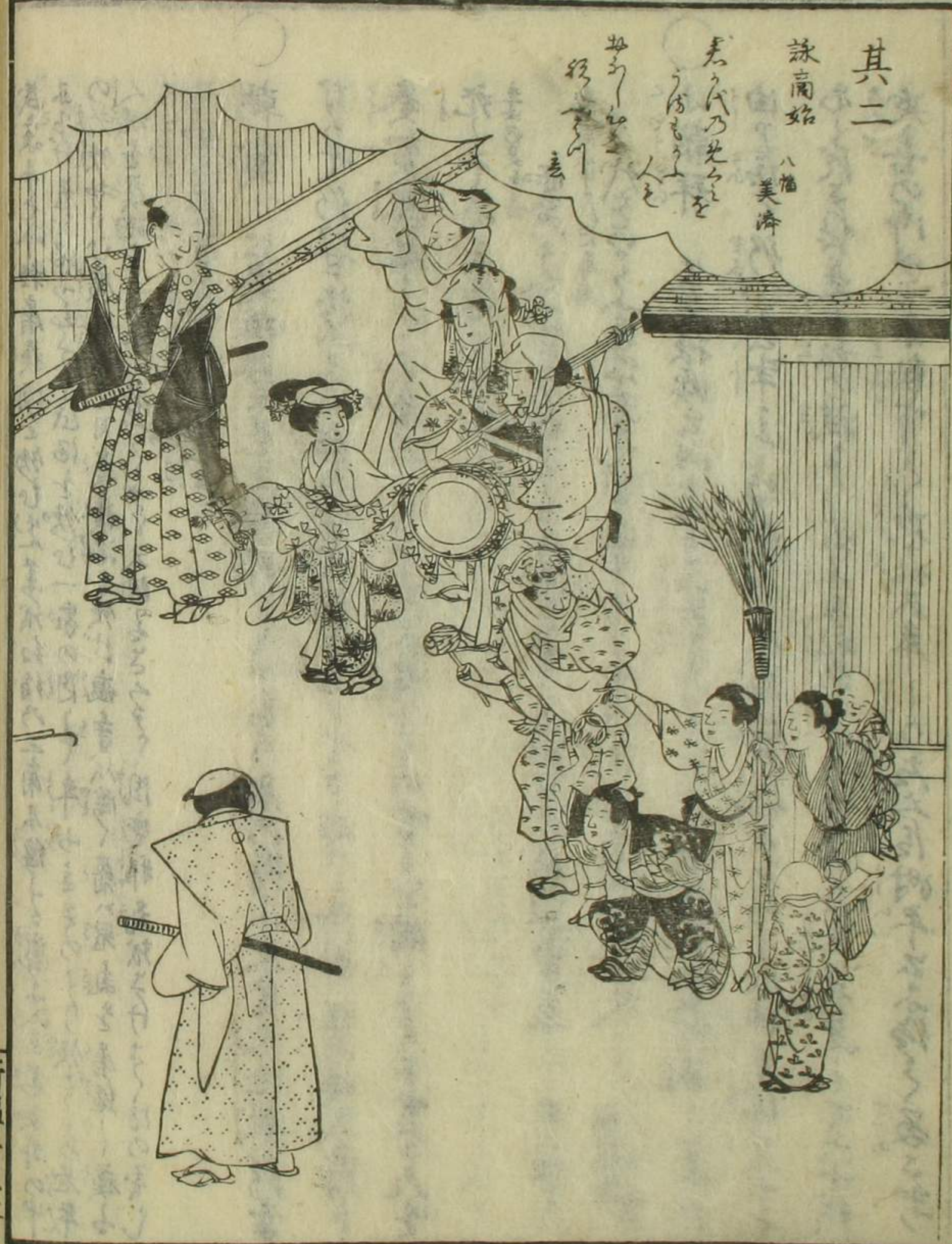
小はは色先無葉藤を敷其上は長延をいれ其下小所屏風八帖を立所座を

三所小殿く中皇 皇上北向小所皇乃名堂 七海若斗 を祿所次は再拜次本

小向小天状拜次は西北池と再拜次は東向再拜南向再拜西向再拜北

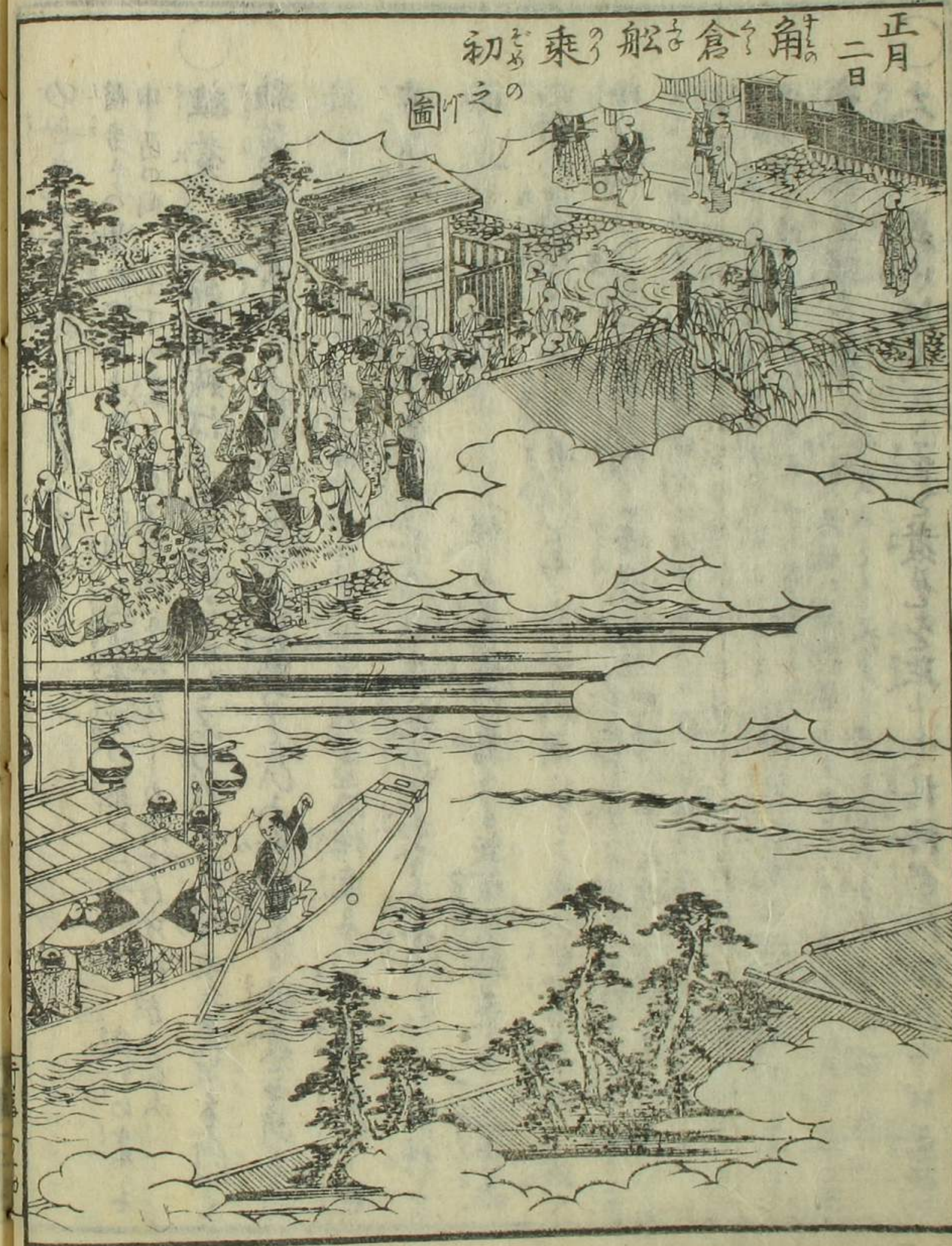
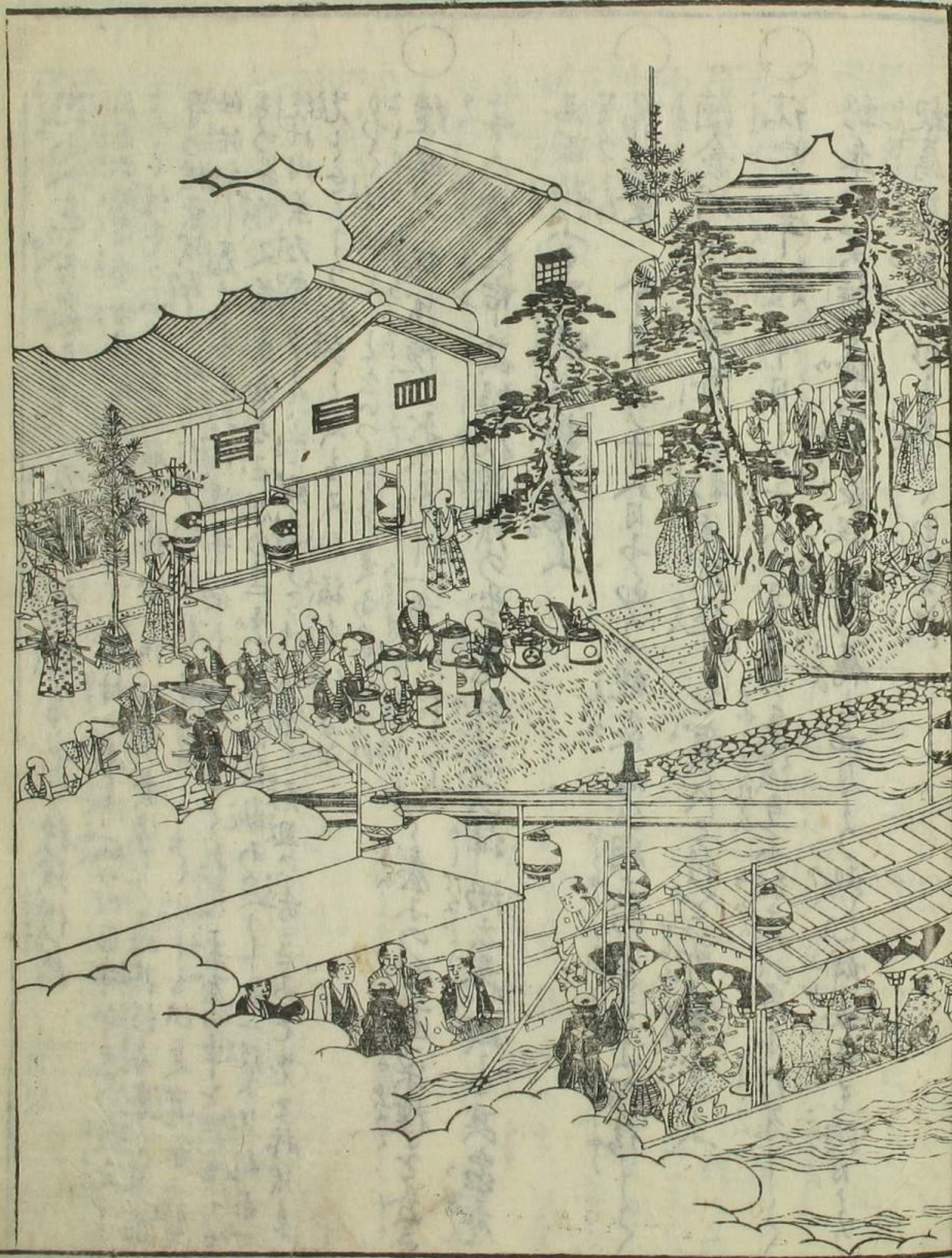
向再拜次は南向小殿く山陵小向 每陵兩 度再拜 度畢所展風を用と還所

齒固 公支根源云至上皇の所座小出所ありて生氣乃色は漸夜と



終ひしより柳柳拜と百官悉くおまをせりとも小柳拜と兵殿上斗
かりぬ小私ある事ゆりてをきき終ひしと然も居下元正の日君威
勢一と居更をきりて中侍一と日十九年又りて終ひしより
中興 關白大臣以下まじりて終ひしより一と居下元正の日君威
六位よまじりて神をほりて舞踏する成層一とまじりて作らる幸ふ
てをまけまじりて人々祖傳の中先皇名門の糸弓場後ふははら
こ上着の人衆人頭をまじりて奏言を其後之御門と出陣するて小柳拜の儀
式はゆりて柳拜と罷りてまじりて小柳拜とありておまをせりとも
終ひしより幸あなりしとまじりて
年中の幸あなりしとまじりて
さうさきと柳拜とせりとも居下元正の日君威
内大臣
九章の曲く居下元正の神威はらるる千石のりとも居下元正の日君威
後成
元日宴會 日本紀云持統天皇元年正月戊寅稱庚辰公卿と内裏宴會とま
公宴根傳云元日の節云小柳拜とせりとも居下元正の日君威
内大臣陣のりとも居下元正の日君威

幸成ゆりしとまじりて
一の上と云關白大臣のりとも居下元正の日君威
大長と云内大臣のりとも居下元正の日君威
よるる人々をまじりて
さうさきと柳拜とせりとも居下元正の日君威
内大臣
是よりさうさきと柳拜とせりとも居下元正の日君威
今乃代もは使臣のりとも居下元正の日君威
大幸と云家々此は柳拜とせりとも居下元正の日君威
下殿して是と終ひしと内膳をまじりて
のりとも居下元正の日君威
に次身云天自南殿小波清御帳中の侍子又是道は整と終ひしと内大臣宣陽殿
の元子中内侍は内膳小波清御帳中の侍子又是道は整と終ひしと内大臣宣陽殿
右兵衛建礼 内弁舎人を居下元正の日君威
大舎人日君宣陽殿小波清御帳中の侍子又是道は整と終ひしと内大臣宣陽殿



肉小入是合家之種族又賀客也

海東六波羅密寺の縁起云人皇六十二代村上帝神臨の時當時神宮の邊あり
よきく彼をみる所乃葉成服し沙山く清極平金佛りく其後毎葉を回す
寺の住系成りて服し中右王服と云ふりて其後其の葉を回す
海陸をりて見る所乃葉成服し沙山く清極平金佛りく其後毎葉を回す
その氣折又葉成服し沙山く清極平金佛りく其後毎葉を回す
此れ付葉成服し沙山く清極平金佛りく其後毎葉を回す
先とせるより初ふと或る又服極音迎と
りて其後其の葉を回す

鏡餅 餅成鏡の形あり一重 麩子のせ蕎麥標を食す

よらん橙昆布其好種果成の歩竈井及び神柳去菴或る其家産

節食 今日より十六日あり親家及び朋友の事互に招待し

酒食成位 一草一木新成連しと賀し種を節食し

徳家年禮 今日より十六日あり良縁互に賀し此方小姓来し

新卒此賀祥を述ぶ傍家醫作の属と四月より勤む婦女子も頃日より

親属無事の事より至るお笑れ

雅事

今日より正月中ありひの葉成服し十二三葉成の女子は眉目なりと夜

服成容なりとつりて此をせよ小本偶の馬才頭を持風流の舞成りて是が

唱亦と目如流と流あり一三味線柳弓を較け合せ葉成りて拍し

門く小あり茶成ををよ是と満月七日初延小乃白馬中夜の儀を下

舞成りて又白本柳の形小成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

ありて種を指成りて白狐と云ふ一様も退りてその有り少た女海をを

若しはりて成りて種成りて白狐と云ふ一様も退りてその有り少た女海をを

右稚のその有り其好使助お福なりて男の麻上下を是れ或る二平二満成

面と被り赤成りて女の名も生えたりて葉成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

述成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

今新成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

今新成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

今新成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

今新成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

今新成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

今新成りてはけりて是れを狐の面を被り舞るめ

二日

朝觀行幸

公事根源云是天子幸の始上皇太后

此宮より幸ある事あり嵯峨天皇大同元年八月朝觀の儀ハ

御吉書始

拜礼

今日攝關家赤内則内殿差遣の上小宮に拜礼あり其屬

さ赤内公卿吉持門外物とこれと違ふ其家此法去史書傳を以て

愛宕寺牛王加持

治承六波羅の西にあり

其武内赤門若弓矢野の弦指寄及小集會し南に二列ありて各宴飲を
さす上小宮侍人柱本と持起り若弓矢野天狗酒盛と云ふは嵯峨酒盛との
似物にて天狗と云ふは若弓矢野の事なり其伴藤原朝臣と云ふは
故小宮の若弓矢野の事なり其伴藤原朝臣と云ふは故小宮の事なり
其伴藤原朝臣と云ふは故小宮の事なり其伴藤原朝臣と云ふは故小宮の事なり
寺僧牛王を祀りて是皆惡魔を禊へ習ふなりと云

角倉船系始

系降河原町二条の南にあり

當家と依く本の支族世に列せしめて吉田と号を五代の祖徳吉田

源藏也有りて長と角倉の地小橋と故小宮を角倉也及び世に滑

三長者の其一有り徳吉より五代の孫より以て豊る人あり其名好小宮

と七と云付工役を嘗て慶長九年嵯峨之井川の上丹波保津邑小宮

の中間巨巖河津に待ち候あり其巖と碑き下流に準平平好し其

或る河原よりして渡り者あり其河を使先其水法流し而して初て

舟を通じ日十二年無と後元禄十一年舟を造り岩瀬より甲府よりしめ
皆氏の利とありて日十二年大佛及建雲の湖大石巨材運送小宮と
及小宮より新小宮川と名流るる小宮川を開く其川源宛特回流し
句配徐平坦なり其流を流るる舟流す小宮より新小宮川に
及く流るる舟流す小宮より新小宮川に及く流るる舟流す小宮より
及く流るる舟流す小宮より新小宮川に及く流るる舟流す小宮より

より及く流るる舟流す小宮より新小宮川に及く流るる舟流す小宮より

予以雙性水理小達一柳寺通寺所并終く以之教百卒の今ふあつて
人皆其利は活も更が碑虎山之慈閣あり碑終林道春拵を又迎
奉甲別殿は小雙ヶ碑石公建之其徳を報んて云

其式言願川筋南倉家の前あり入はは毎武艘を舟一艘と尚も毎
一艘の舟前舟あり寅の刻尚も及は老臣船の士守ありて入は
と七夜半僧白るは附船中に終く終後の海裏あり又船及び舟を
留ふありて後舟の載ふは下舟の船死を舟中へすれ又船は擧ぐ
沈めを求む者群をふれ又登陸あり終て大毎日より七日の終りあり
まや火と地より焼く名物と長老火
とらふは二長老の建風力りとせ

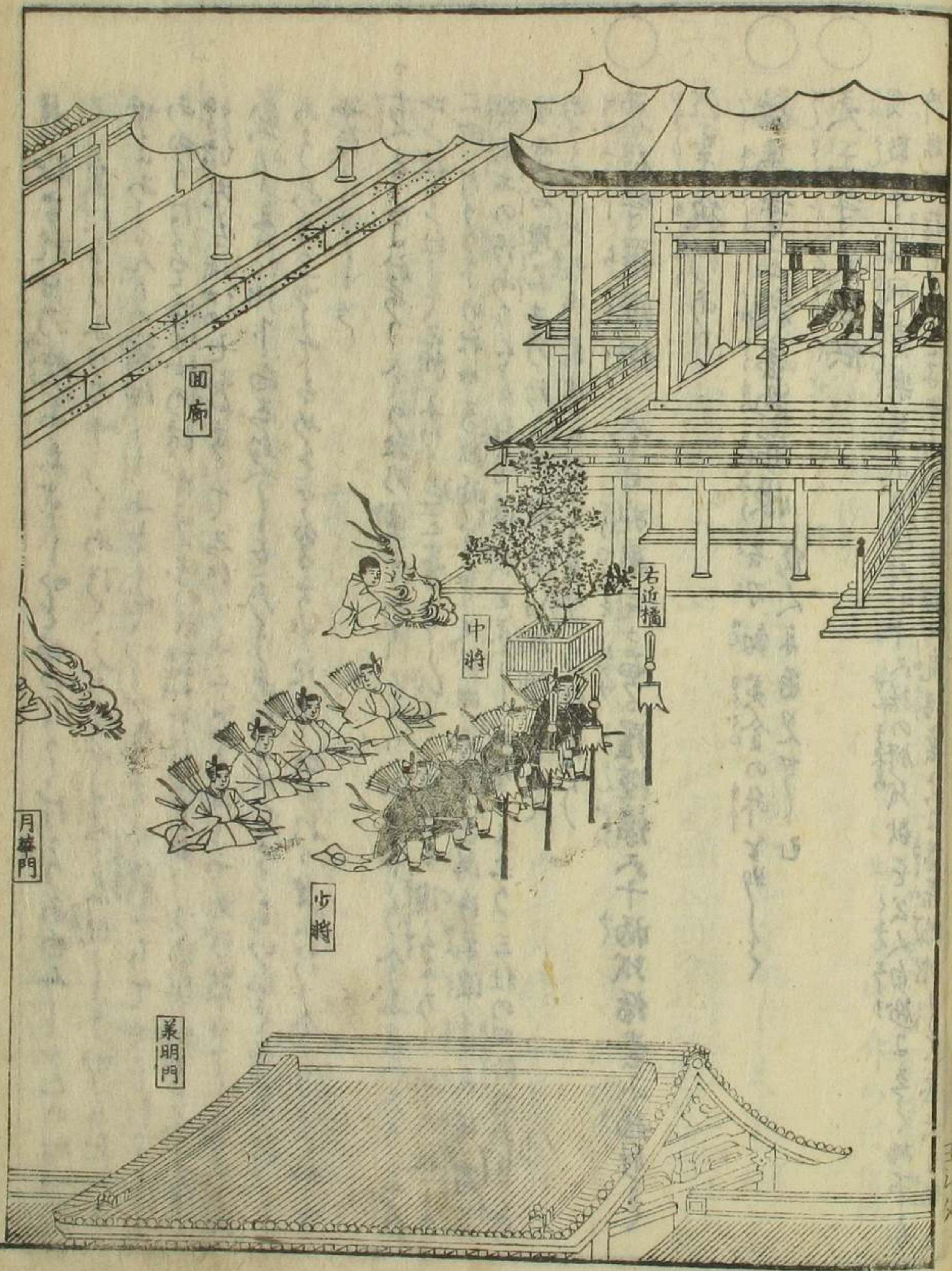
厨下 洛東知恩院小あり

其式今教現住大僧正厨下より出らる是と厨下より其後終るを教後小屏風
と掲げ其前左右は洞灯臺を建僧徳たの方小坐し僧僕右の方小坐し
温純法衣を其後傍心去寒成りつくは成心僧徳より僧僕も一人毎其
俗態と載之傍上下混雜して冥社をぬれ近年酒を禁せし
育馬入湯始 撰津玉有馬温泉寺も終く開基は基菩薩中興仁
西上人の西傍と雲ふのせ山中の寺僧坊中れは終く一僧室小至て玄
あり尚地の温泉溫和ありて血脈を潤下焦氣暖光氣とめづり酒冷

城除く小効あり日本紀之舒明天皇撰津國有馬の温泉小幸はと云
其後聖武帝北許時仍舊昆陽池の傍あり乞食病若く遇ふ乞児の
曰象惣身愈瘡と生れ育るは山間本温泉あり入浴ありて瘡癒
夏瘡病若く瘡負て育る乞児云瘡癒小瘡生りて瘡瘡癒
びて瘡癒我膿血を吸貴を取去瘡癒人やせをよは基乃大慈心と瘡
一やがて瘡癒瘡癒小は瘡癒膿血を瘡癒対ふ乞児忽ち全癒の佛侍
やまゝト深溜湯世界の教主薬師佛ありて東方に飛去り修行基
感歎して如法經を書写して泉庵小埋之薬師佛と彫刻して一寺と營
こ終を安んじ其後素性元年洪水ありて山崩是温泉割滅を瘡小
大和國吉野高原寺の僧仁通上人然聖栴理の靈告より終くは瘡癒
意址試問と泉源と後寺院及び十二坊を又建し守湯と置く対小
建久二年二月より是より温泉意對小復して絶る更あり其後豊を園
の主人封田許を寄附せしむ

按此小聖武帝の后光仁皇后御湯を叙け
海人の膿を吸めよ小阿闍梨と云はるは





月むかれ日乃曉ふまを...
ちる案にありふりや...
母よあゝんりの坂...
あめりけらるる女...
ひらひらと下白...
あうあうあうあう...
母存...

○ 東福寺羅漢供 今日北殿司...
○ 法華執りあり
○ 鞍馬寺三種宝物異帳
○ 天王寺太子供

○ 高基寺湖月尼公忌
○ 芝明神系
○ 人日 荆楚歲時記云...
○ 四日...
○ 五日...
○ 六日...
○ 七日...
○ 八日...

京師

六日

○ 高基寺湖月尼公忌
○ 芝明神系
○ 人日 荆楚歲時記云...
○ 四日...
○ 五日...
○ 六日...
○ 七日...
○ 八日...

江戸

七日

○ 人日 荆楚歲時記云...
○ 四日...
○ 五日...
○ 六日...
○ 七日...
○ 八日...

京師

七日

○ 人日 荆楚歲時記云...
○ 四日...
○ 五日...
○ 六日...
○ 七日...
○ 八日...

天坂

○

○ 高基寺湖月尼公忌
○ 芝明神系
○ 人日 荆楚歲時記云...
○ 四日...
○ 五日...
○ 六日...
○ 七日...
○ 八日...

尚寺始大和國小あり今は前々桓武帝平安味遷都の後寺は極上極上
所あり興院と延法房室の始遷地の後其所を廟堂とて後改め興院と
今日牛王の式元日より今日小角寺傍已別館法ありて柳の本とて之を
中法打是後と遷ひ陽を遷はるの事ありとて之を已別館とて之を
押入ありて之を牛王とて之を信人とて之を信人とて之を信人
押入ありて之を信人とて之を信人

眞面目富

振傳必其爲郡其面目より

流安寺古釋院と号

本寺辨別天女役以若の作日辛四箇所辨別天の其一なり

此寺所と云はるは
竹生傳と云はるは

遠く雲中入く尚山より止系よりとて之を辨別天の祠を建く功徳を
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

二青三と安あふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり
何ふ事と横よる二も亦是小月には尚人より修正を修正の所守とて
辨別天の祠を建く功徳を

幸あふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり
幸あふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり

入あふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり
入あふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり独してあふふり

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

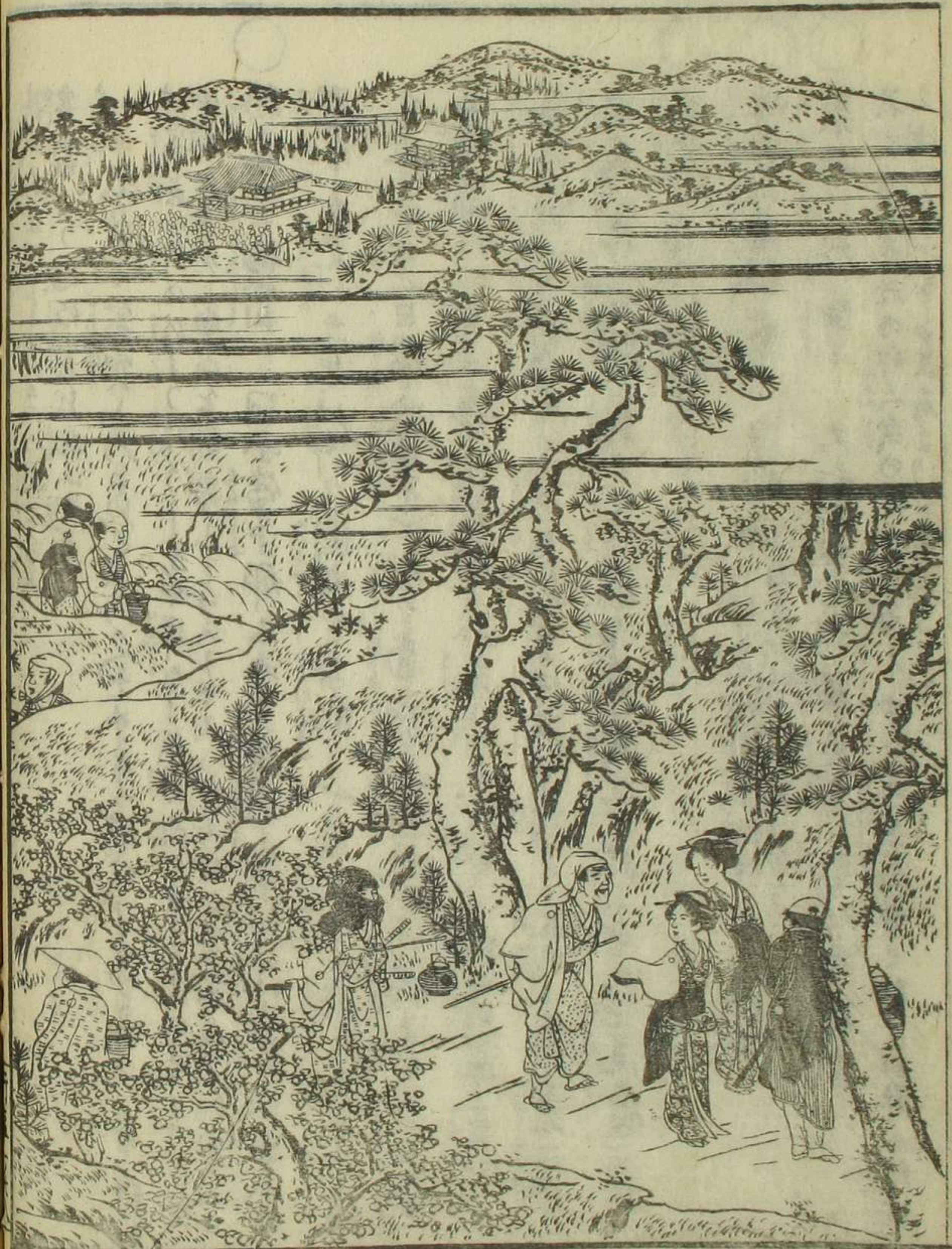
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は
其式元より今日小角寺の七日の暮天下安全五穀を饒の新務あり是は

富之圖
其の面
七日
月



以後一依經法講經七日之時將擇解法僧二七人沙彌二七人別莊嚴一室
陣列講尊像莫布供身持誦真言然則顯密二趣契如來之本意現
當福聚獲諸尊之悲願云々勅して請ふより修之永く恒例とせしむ
帝王編年記云永和元年始く真言院を宮中に置鎮護國家五教を統
のり毎年一七日を限り修法せしむる公直根源云々一令別界され
ば毎年胎藏界年々修せしむる云々

其式今案より東寺の長者宗匠後七日の修法を修する職事
あり及上より胎藏兩部の曼陀羅并五大尊十二支の畫像と揚ぐ胎
兩部兩壇中其年のかき此の修法を修する長者宗匠及胎藏
修法の外又坐して修法牛王柱とて修法あり
大元降法 公直根源云治教省して七箇日は修する苑人内苑寮の
官人を以て御衣法壇所并たる御衣修する修の修して是とひす
御衣より修する苑人封を付て是と治教省する御衣より修する
修法の日は御衣法壇所より修する修する也

諸國

京師

諸國

○大元降法 常曉法降入唐して極靈寺に文勝と密教とを
花林寺に傳へて大元降の秘法を授けし法隆寺に於て
○山城國小栗極の法隆寺に於て大元降の秘法を授けし法隆寺に於て
○祇園牛王 今曉氣江備中牛王を中興國代救世と稱す
○空也堂神教出初 口東坊門神教ありあり紫雲山極樂院光勝と空也
堂と号 其式有難の御禮と謝き空也上人の御禮と謝て新降の市街とあり
○新藥師寺市 大和國十文大寺此一也 市あり其名あり
○諸禮 昨日今日月日同法日と稱す
禁裏近居内々の法隆寺に於て大元降の秘法を授けし法隆寺に於て
○居菴祭 攝別武庫郡西文ありあり祭神天照を神素盞鳥
子孫子孫相傳大己貴子孫八十神傳云神武天皇長髓を
とれ天皇矣とて小推根津彦神教万れ矣とて又食する時ハ

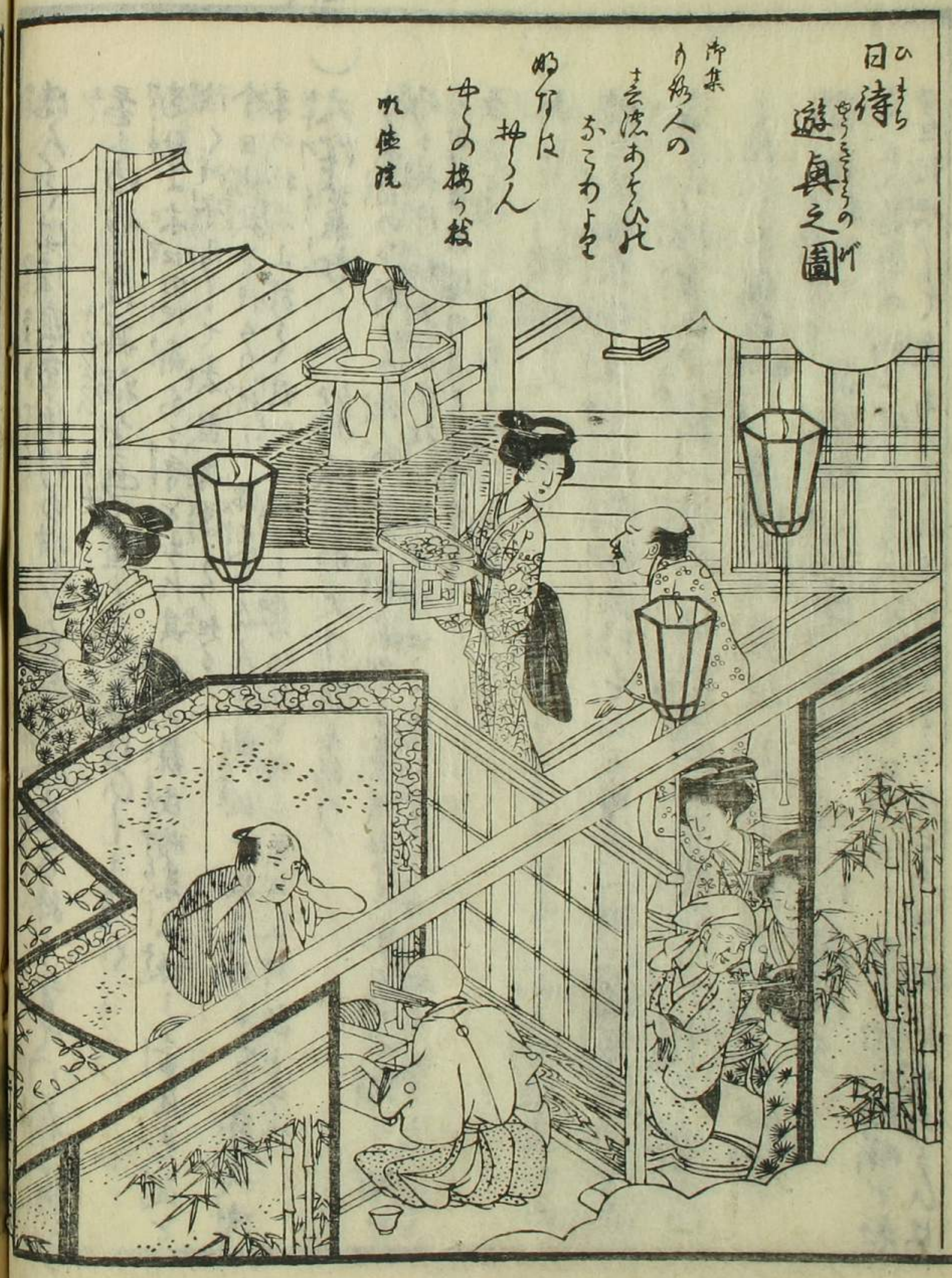
○大元降法 常曉法降入唐して極靈寺に文勝と密教とを
花林寺に傳へて大元降の秘法を授けし法隆寺に於て
○山城國小栗極の法隆寺に於て大元降の秘法を授けし法隆寺に於て
○祇園牛王 今曉氣江備中牛王を中興國代救世と稱す
○空也堂神教出初 口東坊門神教ありあり紫雲山極樂院光勝と空也
堂と号 其式有難の御禮と謝き空也上人の御禮と謝て新降の市街とあり
○新藥師寺市 大和國十文大寺此一也 市あり其名あり
○諸禮 昨日今日月日同法日と稱す
禁裏近居内々の法隆寺に於て大元降の秘法を授けし法隆寺に於て
○居菴祭 攝別武庫郡西文ありあり祭神天照を神素盞鳥
子孫子孫相傳大己貴子孫八十神傳云神武天皇長髓を
とれ天皇矣とて小推根津彦神教万れ矣とて又食する時ハ



爆竹之圖



夕〜宵ふ
 青巻
 月〜けと
 まのせ
 夕〜けと
 こはらの
 また
 多れ崎
 さん
 全君



日待
 遊真之圖
 舟集
 り船人の
 まはるあをひれ
 おこあよを
 好介は
 押さん
 舟の橋うね
 帆柱院

して声あり山腰登りて帰ふと云々
 雍州府志云中世 禁裡爆竹清吉書の灰吉田西詰所の地官位記と
 稱して必とけ所不捨り是東方生氣の方なりと云及不或と其所を年
 徳記と云々

今日山科家より献ずる所の左長主上の清吉書は焼く所の蓋をうけ
 小紙より焼く所の多小燭と持し左の多小清吉書を裁取祝の蓋をうけ
 爆竹より焼く所は職本賜り社下各各屋上より出く拍之十八日其も其式あり
 浴中家今晩竹と立所は連飾を内連飾と名と書と焼く其紙
 の灰空に舞ふとれと今竹の上を走ると云は附けくみんと左義長と拍ん
 け火を走りく今竹の小豆粥と煮又解を焼く合ふは義長と拍ん
 又其爆竹の雨の焦余竹と所の内は挿と其家疲ありと又其灰を屋
 敷の面に敷せは焼く連飾と云々
 大坂より竹より多の連飾と取く河也は焼く皆思意の紙と
 田舎より竹より二三回の爆竹と取く焼く皆思意の紙と
 の社壇より一村の者及び仕置の族人と引止め火を消し男女厨中に入り
 乳をく一袋と明を夏大糸の紐俵俵と引くを羽大さきある爆竹を建て
 両方へ引合ひ引勝た方と揃うと云々大坂より竹と引く
 三袋杖又三連打を引くも或は三袋杖と書く三袋杖より起る焼く茶
 小まされちりちり正月より竹と引く焼く茶
 竹の底土より三連打を引く焼く茶
 て巨且を伏せりあんと云々止半止の正字解りて又三連打と焼
 と焼してハタメクハバルと別びた義長を焼く正字解りて又三連打と焼

正月十五日
 西七條村回植神幸



早稲の分

四十日 川も無 赤らせそのねいこ候 あら候 数ごい 中より候

わげ山田の分

義彦候 ちうごん ねて候いしや いし彦

あけの中田の分

さくたる ざん候 びくの指 さはのちり候 おせんぼ

あけの畑の分

たんむ はの候 けり候 あはのちり らこ

下田の分

ちうごん りらきひ は光 あけきいも そば あらる

下の畑の分

いし彦 いし彦 さのちり ちうごん 赤んぼ 中よりせ すがや

已上五十四分

○真福寺心経會

南都七太寺の其一也 寺元式万子百指の平候

初免山陰國宇治郡少聖山階陶原庄大磯冠深足公の泉坂寺にて

山階寺と号は天武天皇自風元年大和國高市郡麻坂に移して一階寺

と号え明天皇和銅三年去日の地小移して法海公造是より真福寺

と号に

其式幸徳井賀原氏日時の敷文と番寺勢門主小故は其日門主の家小於て 式法あり幸徳井領無後寺南大門の左右に松林と建寺候也其門下

○二保系

駿河國彦根郡神樂神二座三穗津媛命大己

貴命十二代景行天皇十年十一月神皇始ま

十四日より十六日小あつて近國系諸城を治りて馬と名りててま

馬と名りてて十日日尚遊神ありて登りて池と名りて竹の筒は五穀共

外羊蓋藤葡萄等の種れ名と書付候とひりて者く其神竹の筒はま

○博多松嶽ふ

流前園ふあり

今日博多町人あつて酒肴と及布祝儀を遊りて従人彌登又遊地ふ

と名りて町人の筒は下りて裁縫を遊りて其の二尺の裁縫を遊りて

中と名りて裁縫を遊りて其の二尺の裁縫を遊りて酒と及裁縫

博多松嶽ふ 唐紙博多は登りて今の高橋はぬし其様用也と

今博多松嶽ふ 唐紙博多は登りて今の高橋はぬし其様用也と

十六日

○踊歌節會

公更根原を去る二月十五日と月の夜を

中の男女れまよとく物つれを先りてはる年迄の祝詞をけりて

の破換ありんかの中如道一特は作佛理と加へよ未の教ヶ際儀務と河
 小乃よ一人く我益を互小集りくる人の業よまきと種よて酒とすめ
 辨端を一人くめ終して後尚年の執更法を定む其職よさうり人免
 辨して氣氣小屏んとすう法引るて其職小辨する事附り日正月時
 免状と法を式あり是も西を交法を法金の時より共法集りたる
 高任何小集り中法中世は法免状取らるる一宗の文書小集り
 法押て後を事あり今ハ西二紙法免状取らるる一宗の文書小集り
 神職の内年長有亦の人と辨り候事ひく神燈中の大小支と辨り
 又石一山茅小油賣またより一職人等
 可合めもふさ記のあやう業と見くす

○ 義入 今日より農工志の奴婢主家の職と傳く九日教一兩日或と

○ 四日間の親里小返り休息一或ハ神社佛堂小詣り陸を小道遠凡く往

○ 在ぬ入と号ハ名義未詳或ハ書父入と書ハ此ども是と云

○ 筆を小入と和倍の言ハ九庸のものをやと稱する例ま一二を備庸医
 早門を馬并案金牛の取ハ也奴婢の古苦ゆくむさう一寺の法小入ふとのま
 早門の御より一あくか入の職添るる免状と文字と附法せだ及寧とさ
 ヤブイリと判さるる事附小辨人等して免状と字と附法せだ及寧とさ
 五雜組之稱魯の人多し心月十六日と云り寺記小辨りてこれを走百病と云
 是旧年城なる女今日親里よ返り候事と春て祝をさうけて十六日と云
 所々不動尊同帳 今日用此あり

○ 真福寺燈起始 南於

○ 今晚虎院最頭一七燈と傳き真福寺に燈の命を巡り一太陽を小たぬ

○ 五作と云り年中十二夜の大念堂と五作小法と五作小法と五作小法と

○ 聖山同寺中市中法小灯と僧人等法禁は是を見り若くは燈と云

○ 西大寺衆盛 南於七丈寺の其一也

○ 今日寺僧衆と法小袖をまきり候事氣盛の式あり流儀衆法禁とて

○ 妙見寺石賣 下徳小あり 今日又九月十六日の兩日石賣候

○ 念人 三河必去因小あり 神傳

○ 天橋立龍燈 丹後國与謝郡小あり 神傳

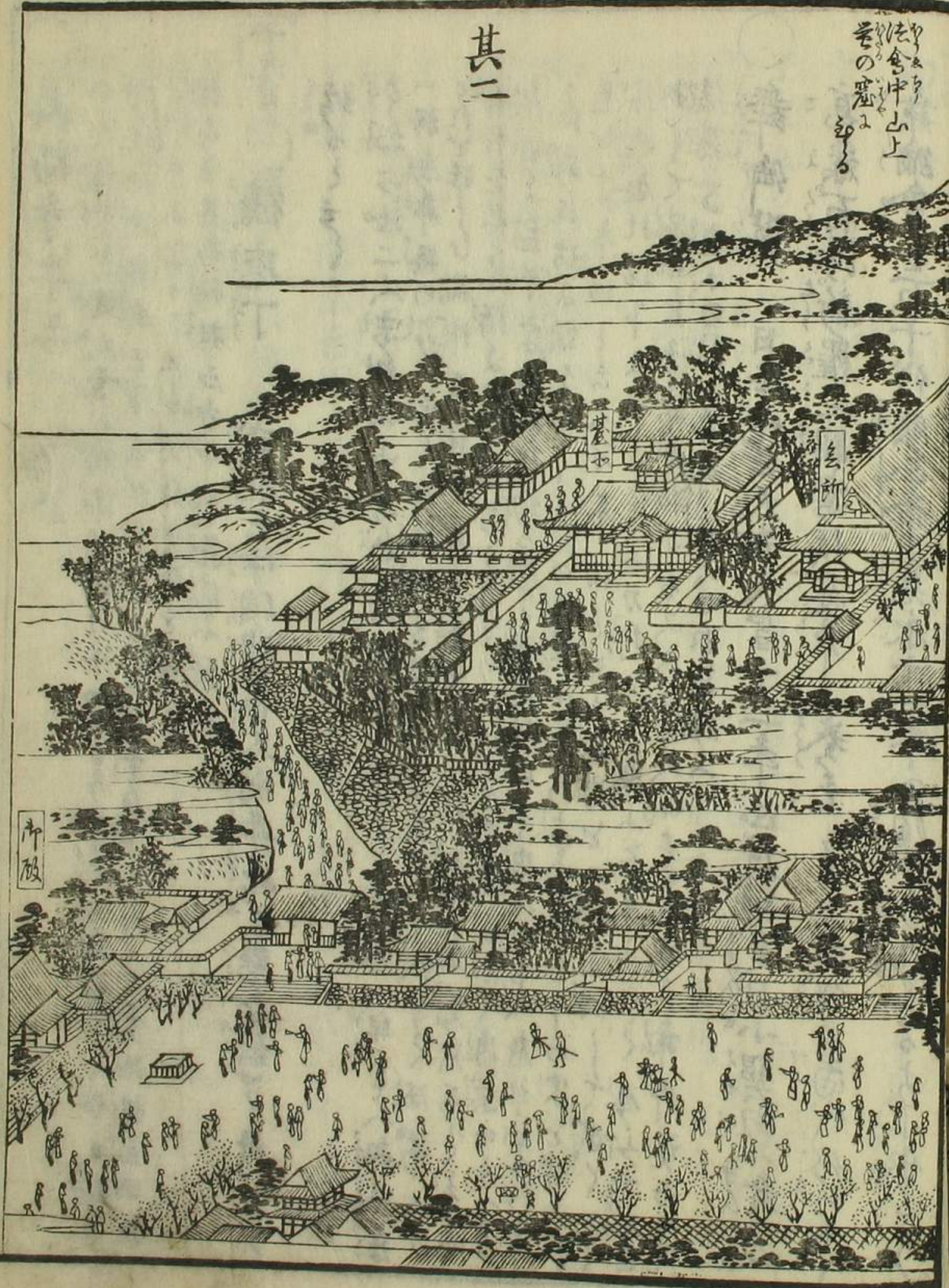
○ 今歳夜半の比屋敷の伴より就燈現ト文殊堂の方小あり堂衆の板

○ 十六楼 伊豫國道後より衣の方和氣山越村了恩寺の林中小

○ 樓あり毎年今日花と寄くあは十六はうくと云傳へ云つあへ

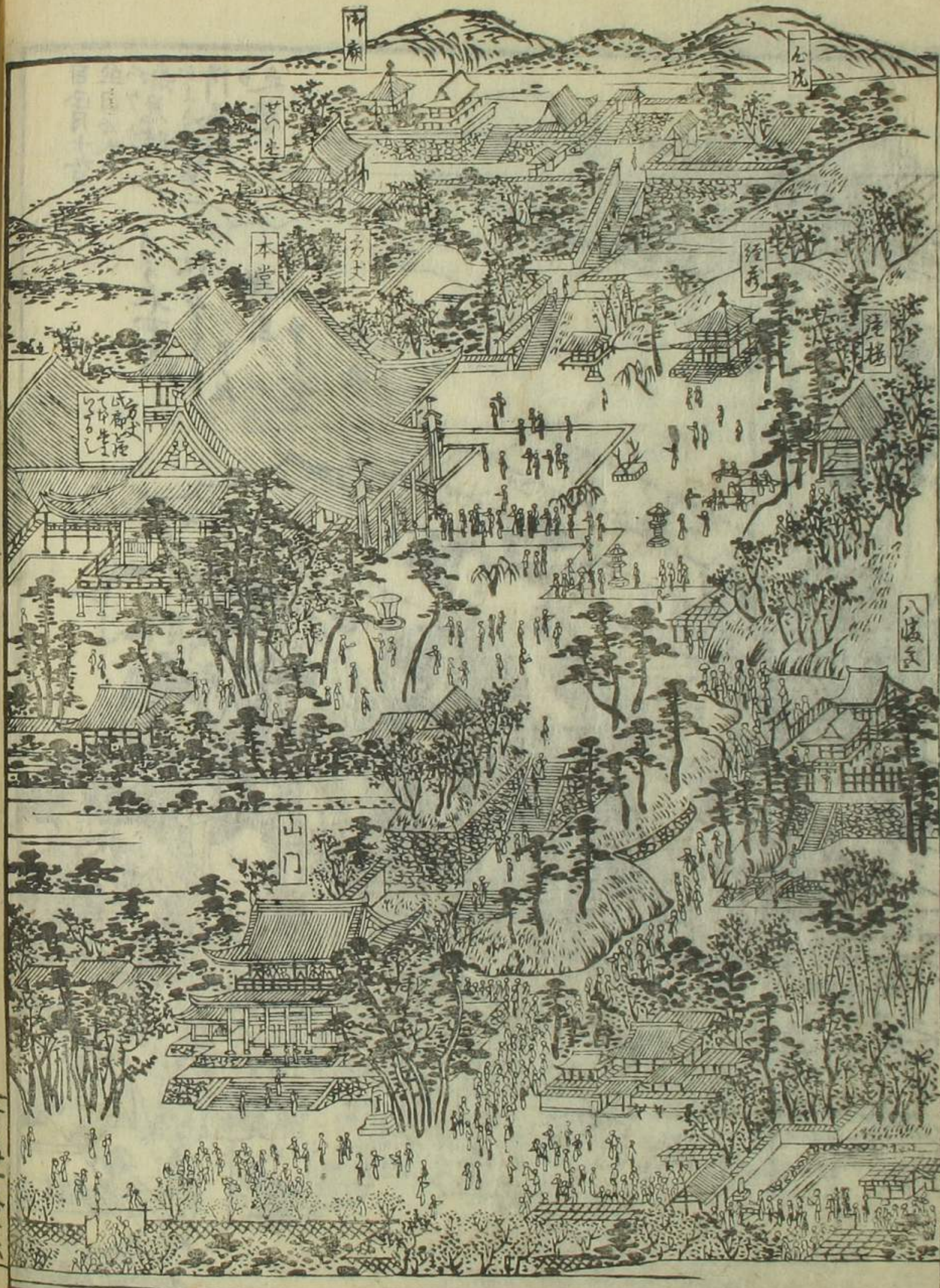
○ けはうと城極く豊一茶病小附一今年樓花を足るまでな合づさ





其二

やまの
法會
沖山
上
の
屋
の
記



七

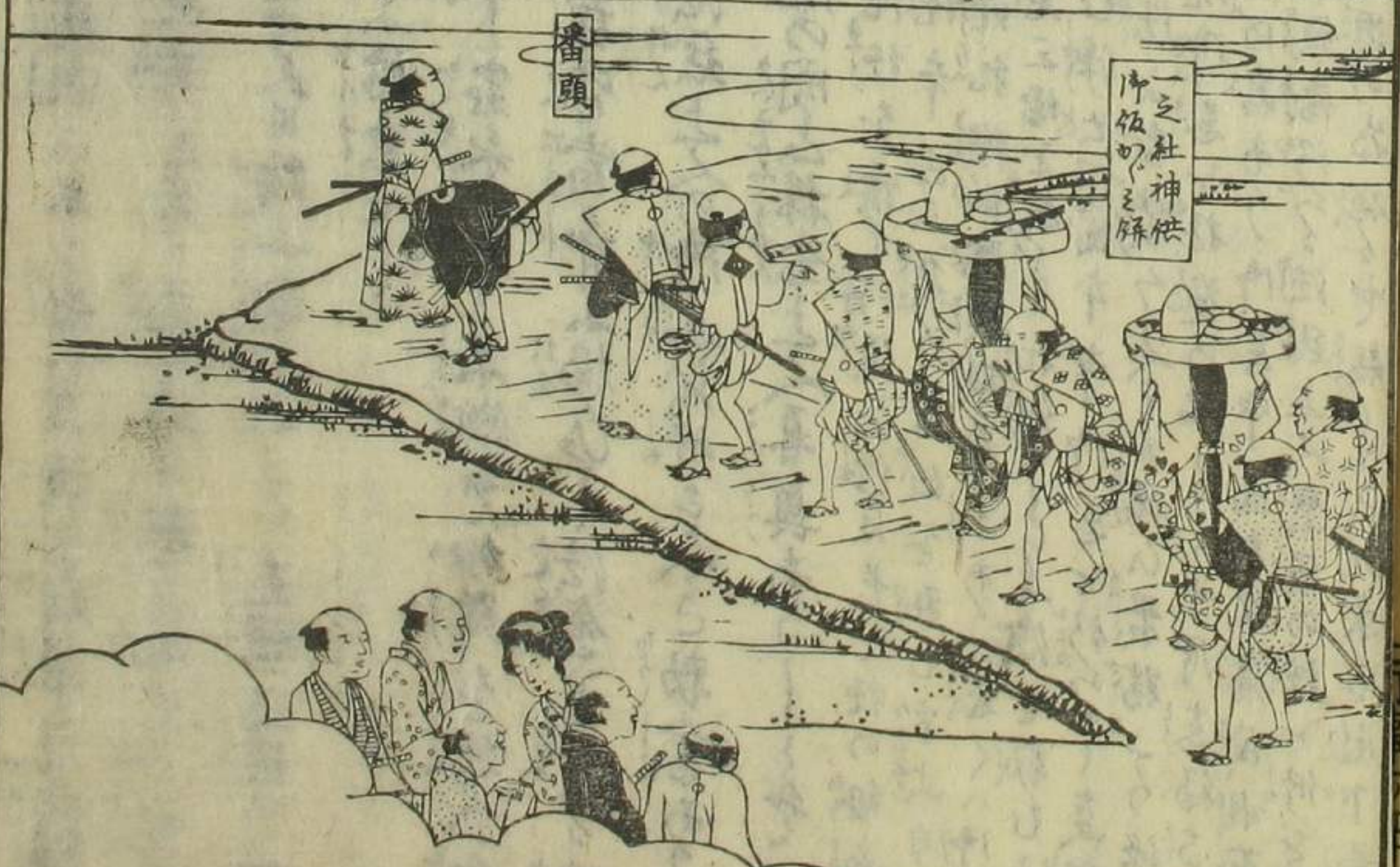
本堂

経書

八

寺
名
記

中津川
の
場



番頭

一之社神供
沖飯の之解

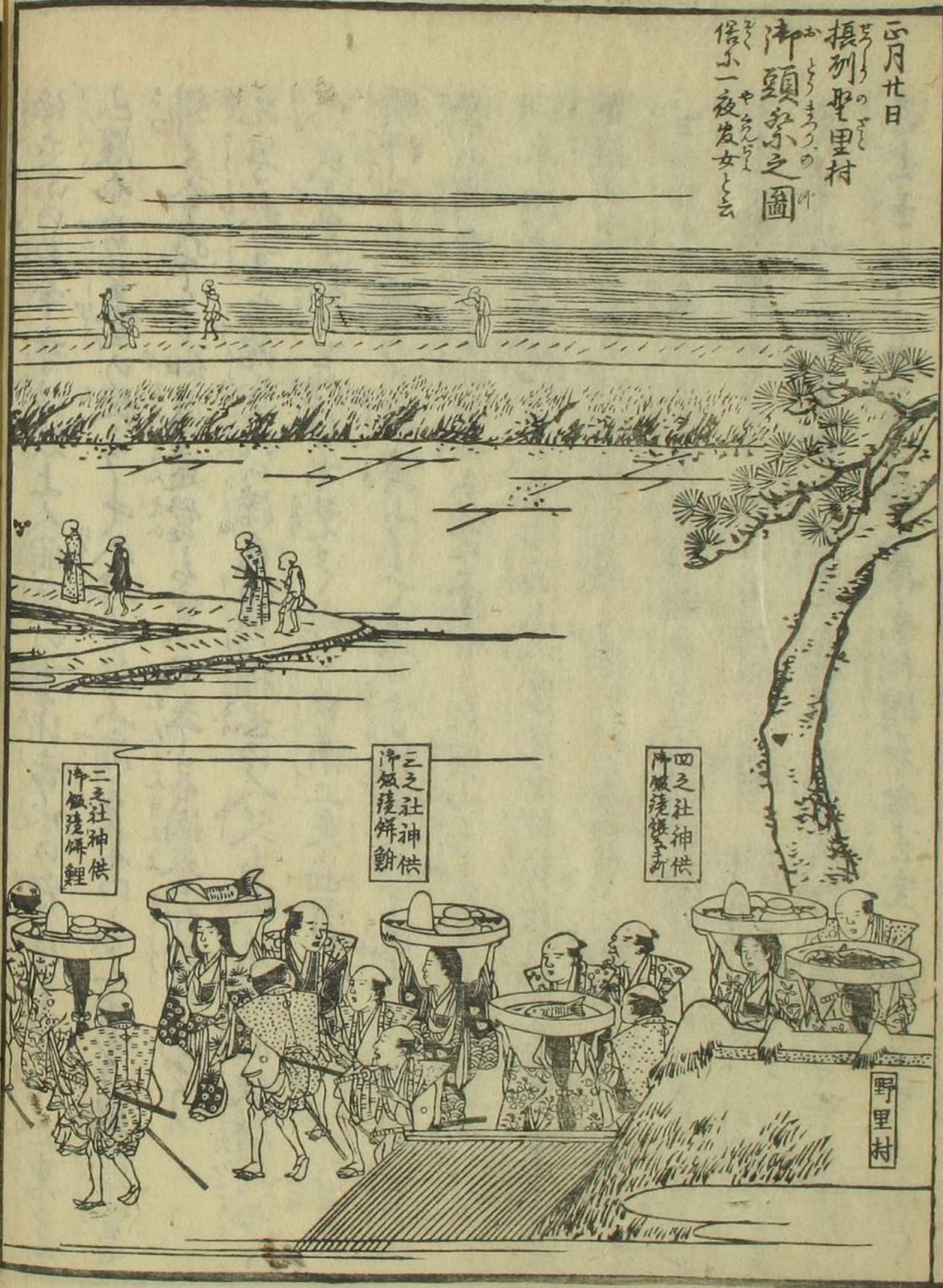
二之社神供
沖飯産解鯉

三之社神供
沖飯産解餅

四之社神供
沖飯産解之餅

野里村

正月廿日
振列聖里村
沖頭祭之圖
俗小一夜女と云



梅溪遊宴之圖



後古 義孝
春風乃
吹く所
梅の花
梢の外
まはる
まはる



廿二日

太秦大會

洛西太秦廣隆寺太子雲々法喜音樂あり

廿三日

相馬妙見祭

下総園あり

廿六日

鐵炮洲高輪月待

今夜男女群集して月を相見

三十日

清水寺幸式連袂

今日より月六坊小旗々勅之文依連守派日役半

是月天幸清調する日男子も亦小物々ゆりくとおび或は作る小籠打

破魔弓と射まこ練打るとの紙を形一内ふあつ射と室引道中變六

為子供く遊びをらん女子亦小物々い形作る月小旗い手まらと共

婦しと都鄙是るを交り物々世々此紙止小兒背懸の氣を懐

陽雲の字小旗い伸まむ一旗よりや

是月下旬梅花盛のんる於下の千旗伏見梅溪小遊宴ありあひる

源誠小山の巻と吟りて野梅の掃と探ありあひる中入小旗平重庵の

丸も梅花枝小多く旗の雲状歌ささくを信法者社小満架暁

信一清香結令辰玉房の聲を御神祓も亦中辰是くしり

